

情報ぎゃらりー

広がれボランティアの輪

NO.54

編集・発行 NPO法人グループわ(西田圭一)
〒651-1102 神戸市北区しあわせの村 シルバーカレッジ内
TEL078-743-8101 FAX743-3830 HP <http://www.wa-net.jp>

2011年4月号

わ



満開の梅の香ただよう花山梅林。後方は花山小学校(3月4日)

梅林ふやそう

満開の梅の香がただよう花山梅林(北区)で3月4日、観梅会と花山小6年生による卒業記念植樹が行われました。梅林は約6000㎡。グループわの花山梅林会が、平成17年から小学校裏の急斜面を整備し、植林を続けています。成木は70本ほどですが、すでに600本が少しずつ成長しています。この日は、猛烈に雪が舞う中、梅林会の15人が手伝って、生徒80人が80本の苗木と格闘しました。苗木を植える子、バケツリレーで水を運ぶ子、空



の袋や道具を片付ける子……。 「いつか神戸一の梅林にしようね」を合言葉に、シルバーと子供たちが連携プレーで今年の植樹を終えました。(取材と写真 広報・宮里寿子、徳原尚世)

東日本巨大地震で被災された方々に心からのお見舞いを申し上げます。グループ〈わ〉は皆様に救援募金をお願いしています。ご協力ください。

54号の紙面

| | |
|----------------|-----|
| 今こそ、震災ボランティアを | 2面 |
| わ優秀5会員・2グループ表彰 | 3面 |
| 地域交流と文化の祭典 | 4面 |
| 新しい愛称は『ぎゃらりーわ』 | 13面 |

[目次の頁へ](#)

1

[次頁へ](#)

今こそ、震災ボランティアを

東日本巨大地震 わ も救援活動

巨大地震が東日本を襲ってから1か月。大津波、原発事故.....被災地の惨状は目を覆うばかりです。今こそ、阪神大震災のボランティア経験を生かし“私たちができる何か”をすべきではないでしょうか。グループわでも、救援募金を手始めに、具体策を練っており、息の長い支援活動を続ける予定です。

募金すでに47万円

グループわの救援募金は部会・地区会の協力をえて3月15日から開始。4月初めまでに寄せられた約47万円は、福祉振興協会（しあわせの村）を通じて神戸市に寄託しました。市は他の募金と合わせ、お米や缶詰、タオル、洗剤、食器、長靴など避難所生活に欠かせない物資を購入。子供たちが書いた「負けないで」「がんばろう」などの応援メッセージとともに、現地に派遣する市職員に託されました。今後も順次、救援物資を調達、仙台市・釜石市・大槌町へ届けられる予定です。

振興協会の募金活動は村内各所で4月中旬まで。グループわ、社会福祉協議会の募金は継続中です。新学期が始まり、学内でもボラセンや各コースで募金を呼び掛ける活動が増えています。

一方、グループわは、息の長いボランティア活動をしようと救援プロジェクトチーム（代表・道満俊徳）

を発足させ、具体案づくりに着手しました。子供たち向けの支援活動を中心に考えています。お手伝いいただける方、協力いただけるサークルは、ご連絡ください。

わ本部でお預かりした募金（第1次分、4月11日現在）
垂水会2万円、14期絵画クラブ1万円、環境未来館有志4万1千円、灘区会木下・渡辺2万円、国際部会柳川瀬5千円、里山和楽会2万円、松元楊子（生8）1万円、東灘区会有志6千円、西区会児玉浄・寛子1万円、11期食文有志1万4千円、川西大吉・公子5千円、須磨区会2万円、北区会役員一同1万9600円、ほたる座1万円、灘区会1万円、菅田忠志・啓子5千円、西区会1万円、三島隆夫1万円、三輪匡清3千円、田野・国分2千円、男声合唱団4645円、茅中英一2千円、SCハワイアンズ1万4千円、生環12期有志5万円、昔遊び研究会有志5万4945円、美工10期匿名1万円、わ本部役員8万9千円



大津波で海になった仙台市内（3月12日、読売新聞提供）

無事だった？ うん、生きてる

「無事だった？」「うん、生きてる。家も大丈夫だった」 - 3月11日の地震発生から5日目にやっと仙台に電話が通じた宮里寿子さん（国9）。無二の友人Kさん夫婦は青葉城近くの高台に住んでいます。テレビで見る東北の惨状に、やきもきした4日間でしたが、受話器の声を聞いて涙・涙の会話が続きました。家は壊れず、やがて電気もついたということですが、ガス、水道は出ず、外出もままならない生活は、老夫婦にとって大変だそうです。なにより、大津波で市街地の住宅がなくなって、景色が一変。海まで一望できるようになってしまったことが一番つらいそうです。KSCの仲間にも、親類・知人が被災。同じような心配をしたという話を聞きます。1日も早い復旧を祈るばかりです。

緊急募集 震災ボランティアとして、やっていること・やってみたいこと・現地へ行かれた方の手記・提案・意見など、「情報ぎやらりー」にお寄せください。

優秀会員5人と2団体を表彰 22年度

グループ わ の22年度優秀会員5人と優秀グループ3団体が別表のとおり、4月5日の理事会で決定しました。5月19日の わ 総会で表彰式がおこなわれます。

【優秀会員】

- ・ 亀田俊彦（音1）= 民謡・三味線の指導
- ・ 川島清一（園4）= 神戸港ガイドで活躍
- ・ 白岩信義（国7）= 区会活動に新境地
- ・ 豊田 實（生4）= 神戸情報館での活躍
- ・ 宮城智子（音2）= 福祉施設の友愛訪問

【優秀グループ】

- ・ むかしあそび研究会 = 伝統玩具の伝承
- ・ 中央区会と真愛ホーム介助
= 真愛ホームなどの支援（連名表彰）

施設訪問など多彩な活動

優秀会員表彰制度は昨年からはまったもので今回が2回目。グループわで7年以上の活動歴がある会員と5年以上のグループが対象。個人は5人、グループは2団体を表彰します。推薦があった会員とグループは運営委員会で投票により選考し、理事会で決定することになっています。

22年度は、施設訪問など多彩な活動を長年続けてきた会員5人・グループ10団体の推薦が寄せられました。3月25日の運営委員会では理事・区会長・部会長ら32人が投票（7人棄権）の結果、別表のとおり決まったものです。中央区会と真愛ホーム介助は、活動対象が主に真愛ホームなので、連名での表彰となりました。

【表彰会員・グループの活動内容】

亀田俊彦（音1）= 民謡クラブ推薦 = KSC入学を機に趣味の三味線演奏を生かして、クラブを結成。以後、14年間にわたり老人ホームや地域老人会などへ出かけ、日本民謡の歌唱指導と三味線の演奏を通してボランティア活動を続けているほか、現在も民謡クラブの講師として後輩の指導にあたっている。

川島清一（園4）= 細野恵久・須磨区会長推薦 = KSC卒業後、平成12年4月から神戸港中突堤中央ターミナルのガイドボランティアに参加。リーダーとして後輩を育て現在も継続しているほか、須磨歴史クラブ・「傘亭」を復元する会・天井川を美しくする会など、須磨の魅力アップのために活躍している。

白岩信義（国7）= 長谷川博・東灘区会長推薦 = プルトップを集めて施設に車椅子寄贈を実現させるなど、

区会活動に新たな境地を開拓。個人としても、老人ホームと一緒に歌をうたったり、ふれあい喫茶を手伝ったり、幼稚園では園児たちと野菜作りや餅つきを楽しんでいる。

豊田實（生4）= 井上堅推薦 = KSC在学中から西国街道を中心にした神戸の歴史を研究。歴史探訪クラブの指導を続けるほか、コミスタ神戸、文化センターなどで市民講師を務めている。神戸市が開設したホームページ・神戸情報館の編集委員として平成15年の開設以来、活躍を続けている。

宮城智子（音2）= 加藤勇治推薦 = カレッジ入学2年目に阪神大震災が発生。仮設住宅や福祉施設を音文の仲間と回ってコーラスで慰問した。平成11年からは、村内にある明生園で歌やゲーム指導を開始。兵庫ひまわり会の中核メンバーとしても高齢者訪問活動を12年以上にわたって続けている。

むかしあそび研究会（入江敏行代表推薦）= 伝統的な玩具で子供たちと遊び、面白さを体験させようと平成13年に結成。幼稚園・小学校・児童館・地域イベントなどへ積極的に出向き、笑顔で活動を続けている。メンバーは200人を超え、道具や材料はすべて手作りをモットーにしている。

グループ わ 中央区会 = 元田弘忠・区会長推薦 = 真愛ホーム介助 = 加藤勇治・福祉部会長推薦 = 両グループは、特養・真愛ホーム（中央区）の開設以来、13年にわたって入浴介助・歌唱指導・マジック実演など、年間120回のボランティア活動を続け、第1回賀川記念賞（22年）を受賞している。真愛ホーム介助は福祉部会として活躍していたが、現在は中央区会のメンバーが中心となっている。中央区会はこのほか、老健施設や介護施設での書道・絵画の指導・マジック実演が年間100回近くあり、社協などのイベントにも積極的に参加している。

【表彰団体以外に推薦のあった7グループ】

英語点字 里山グループ 神港園 ナツメロ2
花山梅林会 舞子駅周辺ガイド 野鳥と自然観察会

わ の総会 5月19日に

グループ わ の第8回総会は、5月19日（木）10時からシルバーカレッジホールで開催します。「情報ぎゃらりー」4月号（54号）に、総会資料などを同封していますので、ご一読のうえ、出席をお願いします。出欠のご返事は6日までをお願いします。午後にはコンサート（無料）も予定されており、どなたでも参加できます。プログラム内容は11面「WAれぽーと」にあります。

シルバーとチビっ子 親しく競演

地域交流と文化の祭典開催

音楽や踊りを通じて地域と交流を深めようという「地域交流と文化の祭典」が2月19日、カレッジホールで行われました。グループわ・文化部会が総力で取り組んだ初の試みで、14クラブと地元から2グループが参加。見事なパフォーマンスにホールは終日、拍手・歓声に沸きました。ロビーでは3クラブが折り紙・絵手紙・書を展示、参加者の目を楽しませてくれました。（16面・トピックスに関連写真）

10時過ぎ、ハワイアンの軽快なリズムで幕開け。民謡・舞踊・合唱・紙芝居・銭太鼓・マジックなど16の演目が休憩なしで演じられ、午後3時には南京玉すだれで幕を閉じました。どの演技も熟練ぶりがきわだち、「シルバーパワー健在」をアピールしました。

地元の2団体が奮闘

それにも増して、会場を圧倒したのは特別参加してくれたチビっ子2グループ。「泉台よさこいチーム」は小学生ばかり15人が出演。歌い、叫び、鳴子をならし、舞台狭しと踊りまくるビートダンス。「アジアの海賊」など3曲を見せてくれました。メンバーは80人もいて、舞台にも慣れているのか「あがらんかった。楽しく踊れたよ」（小5女子）とあっけらかんと話していました。



「どどみみくらぶ」（星和台）は園児や小学生、お母さんたちがいろんな楽器演奏を楽しむチーム。この日も、25人がハンドベル・マラカス・木琴・鉄琴・トライアングル・タンバリン・ピアノなど十数種の楽器を使って「となりのトトロ」など4曲を懸命に演奏してくれました。タンバリンの園児は「おもしろかった。見てくれてありがとう」と。



客席で盛んな拍手をしていた、あるクラブ員は「かわいいね。孫の学芸会を見ているみたい。躍動感あふれる演技や懸命に演奏する姿には大いに刺激をうけた。われわれも、もっと練習しなくちゃ」と興奮気味でした。ただ、残念だったのは客席が半数くらいしか埋まらなかったこと。近隣はむろん、在校生へのPRが充分でなかったのが響いたようです。

この祭典は、福祉医療機構からの助成事業なので、「地域とのふれあい」「子どもや高齢者の健康増進」が目的です。それだけに、地元グループからの出演者探しに文化部会のスタッフは1月中旬まで奔走。舞台設営やりハーサルもばたばたの状況でした。

「手応えは上々だった」

舞台終了後、やれやれといった表情の小林精一・部会長に感想を聞いてみました。「初回としてはまずまずの手ごたえ。企画が持ち上がったのが秋になってからなので、準備やイベントのPR期間が少なかった。運営面や出演者の選定は、クラブ側の協力で順調にいった。今回、北区の子供たちが参加してくれたが、もっと広い地域から出演者を勧誘できるかどうか、が課題でしょう」。西田圭一理事長も「来年度も開催し、もっと多くの子供たちに参加してもらったり、見に来てもらったりできるように努力したい」と意欲的でした。

【出演・展示グループ】（順不同） SCハワイアンズ、KSC民謡クラブ、新舞踊クラブ、ボランティアグループわらべ、混声合唱団コーロKSC、KSCハワイアンフラ、大正琴プリムラ、コーラス・タルミ、おはなし糸車、手話コーラス同好会、KSC男声合唱団、KSCマジッククラブ、楽遊クラブ銀雅、一寸奉仕、絵手紙G、書道部、折り紙G悠々（写真＝ロビーでの作品展示④と客席風景＝渡邊佳視撮影）（広報・南形徹）

しあわせの村 野鳥物語



豊かな自然に恵まれ市街地にも近い「しあわせの村」は野鳥観察にもってこいの環境です。かわいい野鳥の姿や鳴き声は、私たちを癒してくれます。野鳥ウォッチングは散策や森林浴をしながら心身のリフレッシュができるシルバー向きの健康法です。今号から4回にわたって村内に生きる野鳥の生態やバードウォッチングの話をしましょう。

村では80種が見られます

日本で観察できる野鳥は約600種類（山階鳥類研究所）ですが、1997年、しあわせの村で神戸市が実施した年間調査によると、約80種の野鳥が見られたそうです。その内メジロ・ウグイス・シジュウカラ・ヒヨドリなど1年中見られる「留鳥」が37種類(46%)。ツバメ・オオルリ・キビタキなど春に台湾・フィリピンなどから渡って来て、子育てをして秋に南の国へ帰る「夏鳥」が22種(28%)。



秋にシベリアなど北の国から渡ってきて越冬して春に北の国へ帰るツグミ・ジョウビタキ・ベニマシコ・カモ類などの「冬鳥」が21種(26%)です。時に、珍しい野鳥も村へやってきます。昨年12月にヤマシギ、この2月には例年より多い約60羽のオシ

ドリ・オナガガモ・トモエガモが堂坊池に、ハチジョウツグミが芝生広場に飛来。ちょっとした話題になりました。



私たち野鳥の会は、定期的に観察するほか、村内で懸命に生きている野鳥たちを保護する活動も行っています。冬の寒さをしのぎ、春の子育てが



安心してできるように巣箱を設置したり、餌の少ない冬季に備え、ムラサキシキブ・マユミ・カキなど実のなる樹を植えたりしています。野鳥たちは、CO2を吸収する樹の葉を食べる昆虫を餌として樹を守り、木の実を食べてその種を各地にばら撒いて森を広げ、地球温暖化防止にも貢献してくれています。

この冬は“鳥インフル”という暗いニュースがありました。日本へ渡って来たカモ類が強毒性インフルエンザ菌を日本各地にばら撒いたため、多数のニワトリが犠牲になりました。伝播経路の究明はこれからですが、野鳥の死骸を見つけた時には、絶対に触らず役所へ連絡して下さい。（村では緑地運営課：TEL743-8090まで）。（野鳥と自然観察会・茅中 英一）

4月24日（木）に探鳥会を開催します。村の芝生広場に9時半集合。2コースに分かれ春のバードウォッチングを楽しめます。=野鳥の写真はベニマシコ㊦オシドリ㊧ジョウビタキ雌㊨。いずれも村内で堀池邦康（生17）撮影

環境未来館 運営業務を継続

こうべ環境未来館（西区）の管理・運営は引き続きあと3年間、グループわが引き受けることになり、魅力ある未来館づくりに向けて始動しました。神戸市環境局との委託契約切れに伴う入札が今年2月に行われ、わ側の入館者対策などの新提案が認められた結果、委託継続となったものです。環境未来館は16年6月に環境局から運営業務を委託され、開設しました。契約切れは18年に続き今回が2回目。

環境未来館には、年間約13,000人の来館者がありますが、ここ1、2年は減少しています。今回の応募に際しては、来館者に楽しんでもらえるよう

な数々の対策案（別項）を提示しました。こうした対策を実施して、きめ細かいサービスを提供すれば、近隣の方々や小学校、自治会関係者の来訪はきっと増えると期待しております。

[環境未来館をより魅力的にするために] こうべ環境未来館を紹介するパンフレットのリニューアル。

PR用のCD（パワーポイント）を作成し神戸市内小学校166校に配布。来館者に対し、見学だけではなく、草木染やペットボトル工作、ピオトープ活動など、来館者が楽しめるメニューを用意する。神戸市内小学校への出前方式による環境教育の実施。小学生の自然体験学習のため、ピオトープ（未来の泉）での「生きもの観察会」や当館周辺の「里山散策ツアー」を実施する。（環境未来館 山口 俊雄）

未来館の責任者は、4月から山口氏に代わり三輪匡清氏（国10）が務めます。

子供たちと楽しむトーフ作り

ボランティア最前線

「まず大豆をミキサーにかけるのよ」先生がやさしく説明



銀の匙グループ

さあ、火に気をつけて。トーフ作りを始めようか 説明役・裏地彦允さんのかけ声で、8人ずつ12のテーブルに分かれた子供たちが、わいわいと作業にかかります。ここは西区にある市立神出自然教育園の実習室。きょう2月25日は白川小学校3年生99人が相手です。先生役を務める銀の匙のメンバー8人も朝9時半にはスタンバイ、準備は万全です。

トーフ作りの手順はわりと簡単ですが、ガスコンロを使うので細心の注意が必要です。まず1丁分250グラムの大豆をミキサーにかけ、ナベに入れて煮立ったら布袋に入れて絞ります。初めての子供たちばかりなのでスイスイとはいきません。「交代でやるのよ」。「もっと力を入れて！ぎゅっと絞るの！」。先生から注意が飛びます。

ナベには豆乳がたまり袋にはオカラが残ります。この豆乳を85度に温め、ニガリを入れて型箱に流し込み、待つこと15分。固まったら、水にさらして1丁あがり！「わーい、できた、できた」。子供たちは手をたたいて大喜び。お皿に移し、8等分して、みんなで試食します。「おいしいっ」「トーフ嫌いやったけど、きょうから好きになるわ」。自分たちで作ったトーフは格別のように。オカラはお土産に持って帰ります。編集子もひと

口試食させてもらい、ほんのり甘いできたての美味しさを体験することができました。

この間、先生役の8人は各テーブルを回って、ときばきと手順を教え、子供たちを見守り、食器を洗い……大忙しの2時間でした。

銀の匙は食文5期生が主なメンバー。食育の講座をやったり、未来館、児童館へ出かけたり、もう10年もボランティアを続けています。メンバーも12人に減り、ここ3年ほどは、もっぱら自然教育園で小学生相手にトーフづくりを指導しています。小3の国語教科書に、大豆の利用法の話があり、毎年30校ほどがこの教育園を訪れるそうです。

秋からがピークで、午前と午後の2回、実施する日もあり「神経を使うのでもう、くたくた」。それでも子供たちとのトーフ作りは楽しそうです。「私たちの元気の素。体が続く限り続けたいですね」。代表の辻郁子さんの言葉に皆さんいっせいにうなづきました。「これまで事故が1件もない」のもひそかな誇りです。この日の参加者は辻、裏地さんのほか、大塚清子、白石立夫、白石幸子、西坂美代子、芝田睦子、加藤悦子の皆さん。晴れやかな表情で帰途につきました。

(取材・写真は広報担当・南形徹)

ボランティアの心

” ゆっくり ” と紙芝居の慰問

昨年9月シルバーカレッジ当時の「あかりの会」の仲間3人で、朗読ボランティアグループを立ち上げました。創立メンバーは、橋口勝禧さん（食14）片岡桂子さん（音14）と私。グループ名の「あんだんて」は、音文出身の片岡さんの発案です。グループのメンバーも活動の対象も高齢者ということで、“歩く速度でゆっくりと”との音楽用語を拝借したものです。

カレッジを卒業した段階で「わ」の「あかりの会」へ進む道もありましたが、人との交流好きな3人は現役の頃のようなボランティアをやりたいとの思いで、「あんだんて」を立ち上げました。

ボランティアだけでなく朗読も続けたかった



私は、昨年4月から市民福祉大学の朗読ボランティア入門講座を受講。朗読とボランティアに対する心構えを基本から学び直しました。講座終了後に朗読ボランティアグループの一つである「かたつむり」に入会。このグループがおこなっているボランティア活動と朗読練習を参考に、

「あんだんて」でも月1回、一の谷プラザの部屋を借りて朗読練習を行い、老人保健施設で紙芝居や詩などの朗読、利用者とともに懐かしい歌を歌うなどの活動を行っています。

ボランティアは自分自身が楽しくなければ長続きしません。幸い訪問先の施設利用者の方々からの「また来てね。待ってるよ」の声に力を得て、3人とも楽しい充実したひとときを過ごしています。 写真＝「希望の家」での活動、左端が筆者 植村 勝（福14）

韓国テレビ局がKSC取材

長寿先進国・日本のシルバー世代の生き方をさぐろうと、韓国のテレビ局MBCのスタッフ（4人）が3月2日、シルバーカレッジを訪れました。福祉・食文・美工



の授業風景や銭太鼓クラブの練習を撮影したり、学生に話を聞いたり、終日、精力的に取材活動をしていました。卒業生のボランティア団体、グループわの活動にも強い関心をいただいたようです。急遽、里山和楽会がやっている「かがやき神戸」（北区）に足を伸ばし、雑木林の伐採や手入れ作業を熱心にカメラに収め、会員に質問を連発していました（写真）。MBCテレビの取材は、大阪・和歌山・神戸で行われ、神戸ではシルバーカレッジが取材対象に選ばたそうです。

日本の高齢者が日常をどう過ごしているか、は今や世界的な関心事。09年にはドイツのテレビ局もKSCを訪れています。

わ のホームページ衣替え

グループわのホームページ（HP）が2月27日から大きく衣替えしました。これまで運営は業者に委託していましたが、今後はわのHP委員会が全面的に運営することになり、すべての欄が登録なしに、自由に閲覧できるようになりました。

HPは平成15年4月に開設されましたが、当初は、管理すべてを委託しており、原稿1本の掲載すら大変な手間をかけていました。2年前からは、HP委員会で改善を重ね、トップページや各区会・部会・情報ぎやらりのページなどを自由に更新できるようにしていました。

ところが昨年末、業者から委託契約を解消したいとの申し入れがあり、別の業者への移管を進めていたものです。これまで、会員の皆さんが「会員用ページ」を開くには、シルバーカレッジ当時の学籍番号を登録しないとページが開けないなどの不便さがありましたが、今後はその必要がなくなりました。

わのHPを見るには、インターネットを開いて検索欄に「グループわ」と打ち込み、検索結果の上段に表示される「グループわ」をクリックするだけで、ページが開けます。わの情報収集にご利用ください。（わHP委員会）

学習支援をしませんか

子供たちから手作り金メダル

学習支援委員会が行われた3月11日、3学期から西区春日台小の特別支援を始めた黒木幸子さん（音5）が、わ本部を訪れました。



「活動を始めて間もない新米の私に、子どもたちが”金メダル”（写真）をくれました。大感激です」とにこにこ顔です。メダルは、「ともくんのおせわをしてくれてありがとう」のメッセージを書いた直径5cmほどの丸いボール紙に、金紙を張って赤いリボンをつけたものです。一緒に活動している橋野美子さん（一般）も同じメダルをもらって、「感動しました」と話していました。

学習支援の要請相次ぐ

3月18日現在、44校から学習支援の要請が来ます。特に仲良し学級（特別支援）の支援者が求められています。特別な資格は要りません。学校現場では一人でも多くの方の支援を熱望されています。ぜひ仲間に入って下さい。（学習支援委員会）

学習支援の要請内容（3月18日現在）

区名 小学校名（要支援者数・支援予定者名）
特別支援（26校から希望あり）
東灘 本山第二（数名）、本山第三（2・川上）
灘 西灘（通年週1回2・田中）中央 宮本（3）
兵庫 明親（数名・上川）水木（数名）
北 鈴蘭台（5・中原、田中）小部（5・近森、南形、土井、佐伯）甲緑（3）花山（2・徳原）
長田 長田（2・榊原、野村）、名倉（2）
須磨 東落合（6・青木）、若草（数名）
垂水 福田（数名）本多聞（2・長谷川つ、加来）乙木（通1）つつじが丘（2・青木）舞子（2・橋本）塩屋北（1）東垂水（3・林、石川）高丸（6・林、橋本）
西 櫛谷（2・堺、仲井）出合（数名、山口）春日台（数名・橋野、黒木）
学習の指導補助（13校から希望あり）
灘 鶴甲（算数他3・田中）中央 上筒井（数名）北 鈴蘭台（音楽・図工通年1）花山（1）桜の宮（読み聞かせ他6・丸山、平林、山田）有野台（算数・国語1）
須磨 だいち（算数ほか、5・三浦、坂田、青木）
垂水 福田（算数2・織田、林）東垂水（算数他2）千鳥ヶ丘（算数ほか4・橋本）
西 木津（算数2・宮崎、米倉）櫛谷（本の読み聞かせ2、仲井、堺）若草（数名）
ゲストティチャー他（5校から希望あり）
中央 宮本（戦争体験2、昔の暮らし2、昔遊び3）
北 星和台（戦争体験4・濱岡、内田、吉田、昔の暮らし・遊び数名）小部東（昔遊び15名）甲緑（新聞作り・南形）須磨 若草（戦争体験5）

ケナフの炭焼きを体験

カレッジ在学中にケナフの言葉を耳にしたが、それがどのようなものか、どのように利用されているのかは、あまり興味もなく知らなかった。2月27日、“わ”の尽力で設置された炭焼き窯を使って、ケナフの炭焼きと紙漉きのイベントがあるので、興味がわいて参加してみた＝写真。

まずケナフの会代表・長谷川博さんから、ケナフと炭についてのお話を聞く。前もって蒸し焼きにされたケナフ炭と竹の炭を窯から取り出す様子と、ケナフの炭焼き蒸入れ作業を見学した。ケナフと竹の炭とも仕上がりは上々だったようだ。

午後は、森口正利さんからケナフ紙の説明を聞き、紙づくり実習にはいった。牛乳パックとケナフの表皮を混ぜた材料をミキサーで攪拌して溶液を作り、水で薄める。その溶液に網目の枠箱を入れ溶液をすくい取り、紙素材の素を作る。その上に、乾燥した草花を置き、水分を新聞紙などで吸



い取ってアイロンで乾燥させると、草花が浮かぶハガキやしおりのできあがり。自分で作ったはがき絵紙としおり、出来上がった炭をお土産にいただいた。これまで、紙つくりの話などをテレビで見たことはあるが、自分で作ったことはなかったので、大変面白く楽しい体験ができた。

今回、参加者は期待したほど多くなかったが、炭焼き・ケナフ紙つくりのほか、食べ物の試食などを同時にやると一層盛り上がるのではないかと思った。（国12・土井 昭政）

ボランティアの心

叱ったA君と仲直り

その日は学校で音楽会があり、なかよし学級も少しざわついていた。担任の先生がドリルを4年生の男児、A君の前に差し出し、ボランティアの私はA君の対面にサポートのために座った。2枚進んだ所で「ここ違っているよ。直そうね」と優しく言った。その瞬間、筆箱が私の顔をめがけて飛んできた。すばやくよけたものの、無意識に「A君！お顔に物を投げてはいけません！」とA君の両手を掴み、大声で叱った。

次の瞬間、A君が頭で、私の上あごを強打した。（痛い！）じっと我慢して、手を抑え続けた。A君は観念して、ドリルを済ませ、その日の授業を終えた。私はたまたまマスクをしていたが、帰宅して鏡を見たら、血が噴出しひどい口になっていた。お医者さんに行って全治1週間の診断を受けた。



なかよし学級（特別支援）のボランティアを始めて5年になるが、こんな事は初めてだった。私の怪我もひどかったが、それ以上に大きな声で、叱ってしまったことを恥じた。「逃げればよかったのでは？」「彼はどんなに傷ついたかしら？」などと、後悔ばかりで、胸が痛んだ。障害を持った子に本気で怒って良いの？ 苦しくてたまらず、次の日、教会に行った。悔い改めるとい言葉の原語は方向転換です（あっ、方向転換か...）牧師さんの言葉に少し気が楽になった。

5日後、勇気を出して学校に出かけた。なかよし学級に着くとA君が飛んできて「この間はごめんなさい」と頭をちょこんとさげた。私は思い切り抱きしめ、「A君こそ頭、怪我していなかった？」と聞いた。「ボクは大丈夫！」とニコニコ顔で言ってくれた。彼はいやなことがあると、直ぐに切れ、つばを吐いたり物を投げるが多かったが、その日から態度が一変。私の膝の上に乗ってきたり、甘えたりするようになった。あれから、2か月。今まで以上に子供たちとも、先生方とも、より近づけたような気がする。これもA君のお陰かな。= 写真は子供たちとの校外学習（福祉13期 南形 公子）

講演「子供との接し方」が好評

グループわ主催のスキルアップ講座「子供との接し方」の講演が1月18日、カレッジの学習室であり、学習支援活動をしている会員ら50人が熱心に耳を傾けました。講師はソーシャルワークが専門の神戸常盤大・野尻紀恵先生(写真)。



子どもを粗末にしない共育 をキャッチフレーズに、子供のパワーを生かし、地域と一緒に活動しよう、と提唱しています。

「虐待・いじめ・暴力行為・発達障害の子の急増は、子供たちが小家族と学校の中だけで生活し、社会（地域）で学ぶことが少ないことも一因。周りの大人が見守ってやる仕組み、S(ソーシャル)S(スキル)T(トレーニング)が大切です。健全な社会は行政・企業・NPOの3者が、それぞれの立場から貢献することで築かれます。

アメリカでも、学校へ地域の人たちが入って活動

するようになったと聞いています。日本がモデルになっているのです。昔遊びのようなものも大切で、なんでも流行のものがいいわけではない。迎合は必要ありません。グループわのようなNPO、シルバーパワーは、大いに期待されているのです」とカレッジ生の奮起を促していました。

里山整備 機材など搬入

グループわが進めているカレッジ北側の里山整備事業で、簡易炭焼き装置など各種機材の搬入が始まりました。3月25日にはベンチセットや野鳥説明看板・野鳥



観察壁も設置され、伐採作業に使うチェーンソーや刈払機の「安全講習」（写真）も行われています。4月からはいよいよ実際に作業が始まります。里山づくりを手伝ってやろうという方、ぜひ参加をお願いします。お問い合わせは、グループわ本部（Tel 743-8101）まで。

WA れぽーと



国際学校で昔遊びフェスタ 竹馬など9種を紹介



マリスト国際学校（須磨区）で2月8日、昔遊び研究会による体験教室が開かれ、園児や生徒たち260人を相手に、竹馬・コマ回し・ぶんぶんゴマ・折り紙・紙ヒコーキ、けん玉・お手玉など9種類の遊びを紹介。一緒に楽しいひと時を過ごしました。同校の日本週間の行事にちなんで毎年行われているもので、この日は、入江敏行代表ら31人がスタッフとして参加。対象者が多いため、幼稚部・初等部・中高等部に分けて実施しました。

小さい子供たちにはお手玉や折り紙、綾取りが人気で、竹馬やコマ回しは高学年に大もて。9種類の遊びを順番に回るスタンプリーも楽しそうでした。ぶんぶんゴマ300個、紙トンボ300個、綾取り紐300本、折り紙など、材料や道具は、スタッフが総出で用意したものです。グループ わ から出向いた担当者は「会場が玄関口ビーでやや狭かったこと。小さい子も、大きい子も同じメニューだったが、少し工夫の余地があったかな」と話していました。（写真は、ブンブンゴマ回しに挑戦する生徒たち）

ミャンマー留学生とクルージング

初春を思わせる3月7日、国際部会はミャンマーの女性留学生と母親を招待し、神戸港をめぐるコンチェルト号でクルージング交流を行いました。彼女は2年間の留学生生活を終え、この春卒業するのを機に、ミャンマーから日本語も英語も解らない母親を呼び寄せて日本を案内して回っています。この日は、午前中の国際部会例会に立ち寄り、記念撮影をしたあと、午後からクルージング。部会から参加した6人と一緒に、海の上から神戸の街を眺め、ティーパー

私のボランティア日記

大正琴で国際親善 山田淑子（食文10）
グループわに入り、5年経ちました。大正琴でボランティアを年12、3回。訪問先もいろいろですが主に老人施設などでの活動です。

22年8月、神戸で国際免疫学会があった際、会場の一隅で開かれた「日本文化教室」は、心に残る活動体験となりました。外国の方々を対象に、大正琴にふれていただくというものでしたが、こういう経験は初めてのこと。メンバーが演奏する30数曲を選び、練習を重ねて、4名ずつで5日間を担当しました。

当日、カナダの女性は「さくらさくら」「上を向いて歩こう」を2、3度で弾けるようになられ、ギターが趣味という男性は、楽譜なしですぐに「禁じられた遊び」を弾かれたのには驚き、思わず拍手、拍手です。言葉が通じない時は、通訳の方の応援を受けて何とか説明しました。たくさんの曲を繰り返し弾いたことも思い出の一つです。

ある新聞のコラムに「ボランティアをしよう。どんな形でもいい」とありました。いろんな人との出会いで学ぶことがたくさんあり、ボランティアまた楽し と思うこの頃です。



ティーで楽しいひと時をすごしました。船上では、ピアノとフルートの生演奏があり、彼女は「早春賦」をリクエストし、「ミャンマーからの留学生です」と船客に紹介されてご満悦でした。（広報・柳川瀧一）（写真はクルージングを楽しむ一行）

3区会長、いきがい部会長が交代

22年度の各区会総会が3月末までに行われ、3区会で区会長の交代がありました。北区 = 笹内孝一氏（園13）西区 = 水野俊夫氏（国14）垂水区 = 元吉治夫氏（園14）いきがい部会長も新年度から岡村健二郎氏に交代しました。

WA れぽーと



自慢のノド、民謡43曲を披露

KSC民謡クラブの発表会が2月6日、生田文化会館（中央区）で開かれ、会員50人が日ごろ鍛えた自慢のノドで、草津節や出船音頭、貝殻節、庄内おばこ、鱈釣り唄など43曲を次々と披露。全員で広島木遣り音頭をうたって賑やかに幕を閉じました。同クラブは、三味線・太鼓・尺八の地方（伴奏）を伴い、踊りも加わるという正統派。この日も、唄のほか、柚子の会・千の会による勇壮な踊りが加わり、客席からは盛んな拍手を浴びていました。代表の松山昭さんは「発足から8年。月1回の施設訪問で皆さんに民謡を楽しんでもらっています」と話しています。（写真は鱈釣り唄を踊るクラブ員）

17人が男料理を楽しみました

白井操さんのレシピで料理を楽しもうという男性向け教室が3月25日、カレッジの調理室で開かれました（写真）。食文14期が指導する3回シリーズの1回目。この日は「料理は初めて」という人や「趣味でやっています」という人ら17人が参加。橋口勝禧さんのわかりやすい説明と、スタッフの手際よい指導で、「豚肉の味噌生姜焼き・豆腐とトロロのレンジ蒸し・春キャベツと油揚げのさっと煮・ワカメとシメジの味噌汁」のメニューに挑戦しました。1時間ほどかかってできあがり！「ちょっと煮すぎたかな」

奥田良子「えすぺらんさ」コンサート

難病を乗り越え、夫婦でフルートやオカリナの演奏活動を続けている奥田良子・勝彦さんの「トークコンサート」（グループわ主催）を5月19日（木）シルバーカレッジホールで開催します。わ会員外の方や、在校生の参加も歓迎します。入場無料。

19日13時開場。13時30分開演。トークと音楽フルート奏者の奥田良子さんが、クローン病を

私のボランティア日記

憧れのハワイ航路 太田洋子（国際4）
KSCハワイアンズの仲間でボランティアに出かけています。「西神中央のデイサービス」にはモダンなおじいさまがいらっしゃる「ハワイ航路」を唱ってくれます。若かりし頃船員だった彼は、1か月後にハワイ上陸の予定だったので、「ピチピチ娘からレイをかけられキスされる」と、心待ちに夢をふくらませていたそうです。それなのにパールハーバーで戦争が始まり、以後行くこともなくなってしまいました。あこがれの気持ちだけは未だに絶たれず、いつまでも「あこがれのハワイ」であるとのこと。

そのようなことがあって、私達の来訪をすごく喜んでくださり、握手をしながら「かわいい」との言葉をいただきます。彼のウキウキした笑顔に私たちも嬉しく楽しいひとときを過ごします。

「パーマリン中道」は、寝たきりや話せない方が多いのですが、音楽がはじまると、とってもいい顔になり手足を動かして体をゆすりだすのです。

「昔はさぞ幸せな家族、家庭に恵まれておられたのでしょ……」とほほえましくなり、その笑顔に全員が元気をもらってかえるのです。



「オレの料理もいける」。全員で試食しながら、なごやかにランチタイムが続きました。実習は4月1日と5日にも行われました。（取材 広報・宮里寿子）



発症し、夫の勝彦さんと出会い、勇気づけられて、「えすぺらんさ」を結成。全国で演奏活動を続ける人生を音楽にのせて語ります。曲は、いとしのエリー・

千の風になって・涙そうそう・めぐり逢い・見上げてごらん夜の星を、など。

カレッジ だより



15期生350人がカレッジ卒業

第15期生(22年度)の卒業式が3月18日、カレッジホールで行われました。東日本大震災の直後でもあり、黙祷で亡くなった方の冥福を祈って開会。今井鎮雄学長の式辞も、この大地震にふれ「大変なことが起こった。阪神大震災を思い出した人も多いでしょう。カレッジのボランティア活動はあの震災が原点です……」などと語りかけました。22年度の卒業生は350人。コース別では福祉46人、国際88人、生環83人、美工36人、音文31人、園芸31人、食文35人となっています。(写真は講師やインストラクターの激励を受けて教室で卒業証書を受け取る生環コース)

雨の入学式 420人が仲間に

第18期生420人の入学式が4月8日、カレッジホールで行われました。東日本大震災で亡くなった方々に黙祷をささげた後、今井鎮雄学長が「大津波で何もなくなり、原発汚染も広がって世界中で騒ぎになっている。危機に瀕している日本をどうすればいいのか。皆さんに考えてほしい」と訴えました。この日は雨天だったので、記念撮影はホール内で行われました。コース別入学者は健福80人・国際96人・生環85人・美工39人・音文40人・園芸40人・食文40人です。

G学習の合同発表会

15期生のグループ学習合同発表会が2月28日、カレッジホールで開催され、各コースの先輩、後輩たちも駆けつけ、終日、熱心に耳を傾けていました。発表は午前10時の音文専攻から始まり、休憩を挟んで16時の生環コースまで、順次行なわれ、講師からは的確なコメントがありました。ロビーでは28日から3月18日まで、美術専攻生の卒業作品が展示されました。各コースの発表テーマは次のとおりです。
【音文専攻】 和太鼓グループ パーカッショングループ 全員合唱 【国際コース】 天空鉄道で行くチベット 俘虜収容所からの国際交流 台湾に貢

献した日本人・八田與一【食文専攻】 豆で楽しく・食べて元気 お酢と遊ぼう【福祉コース】 心に響く音楽 一笑健命 公園で美しい自然を伝えよう【園芸専攻】 ピーマンの栽培 サトイモの栽培 ナスの栽培【生環コース】 神戸人の気質を探る 神戸・西国街道歴史風景めぐり 須磨離宮公園内岡崎山の整備

カレッジ事務局人事(4月1日・敬称略)

【転出】北尾美雪(教務リーダー)神戸市社会福祉協議会へ 加藤美智子(生環担当)振興協会へ【転入】筒崎康孝(振興協会から、教務リーダーに)【新任】絹川雅子(スポーツ担当)【交代】加藤智代(生環担当)

卒業生が講師に、ふたばシニア塾

シルバーカレッジ卒業生が講師を務めるシニア塾が3月から「市立地域人材支援センター」(長田区)でスタートしました。13日には野村勝氏(福祉11)が「消防士から見た阪神大震災」のテーマで講演。2回目の27日は次のような3講座がありました。最初は「仲間づくりのゲーム」。

井上善道氏(食文5)の指導で、初対面の人同士でも打ち解けることができるゲームを学びました。2番目は中沢千枝子さん(音文6)の「ハワイアンフラ」。



ゆったりとしたハワイアンのメロディーに乗って、参加者も一緒に踊りました(写真)。

午後からは「コウノトリを育む田んぼづくり」のテーマで、村尾三樹雄氏(生環11)、南形徹氏(生環14)が講演しました。「ノリカちゃんとコウノトリ」というお話ビデオを見ながら、南形氏がコウノトリ保護にける豊岡の現状やエサ場となる田んぼ作りの大切さを紹介。自然農法を実践している村尾氏は、農薬を使わない田んぼ作りの難しさなどを、スライドで説明。もっとご飯を食べようと訴えて、参加者から大きな拍手をあげました。26、27日は人材センターを会場に「まちの文化祭」が開かれており、多彩な行事や模擬店でにぎわいました。

同センターは22年秋、旧二葉小学校跡に設けられ、市民向けのイ各種イベントをやっています。シニア塾は、カレッジ卒業生が講師を務めており、中山喜統マネージャーは「来年度も講師を募って、継続したい。ぜひ、応募してください」と語っています。

新しい愛称は「ぎやらりーわ」

公募に99点

土井さんの作品選出

グループわの情報誌の新しい愛称は『ぎやらりーわ』に決まりました。応募があった99点から3回の選考を経て、土井昭政さん（国10）の作品が最高の評価を獲得。会報の新しい誌名として採用されることになりました。5月総会の承認を得て、55号（7月号）から使用します。

12月下旬から始まった誌名公募には、新しいイメージをねらったもの、ユニークなもの、継続性を意識したもの、仲間との連帯を求めるものなど、39人から99点の作品が寄せられました。文字デザインは3点でした。

2月18日の広報委員会（16人出席）で2回の投票を行い、20作品に絞りこみました。5人の選考委員にはこの中から、（3点）・（2点）・（1点）の3作品を推薦してもらい、点数を集計した結果、別表の順となりました。

1次・2次とも応募者の氏名は伏せて選考しています。

| | | |
|---|----------|---------|
| 位 | ぎやらりーわ | 12点、 |
| 位 | かがやき | 6点、 |
| 位 | グループわ | だより 3点、 |
| 位 | あかり、 | わ通信、 |
| | サークルニュース | 1点、 |

選考委員は南本伸一氏（福祉振興協会）、松井幹夫氏（カレッジ事務局）、茅中英一氏（部会代表）、土井昭政氏（地区会代表）、西田圭一氏（わ本部）です。各委員の選考内容は次の通りです。

「継続性を重視」「わを生かした」

A委員 ぎやらりーわ（これまでの名称の一部を生かしており、継続性がある）

わの絆 わ通信

B委員 ぎやらりーわ（現在の「ぎやらりー」と活動主体であるわの名称が結びつき最適だ）

かがやき かけはし、グループわだより

C委員 かけはし（わの精神を会員やK S C関係者に伝える「かけはし」となるように）

かがやき あかり

D委員 ぎやらりーわ（シンプルでわかりやすい）

グループわだより サークルニュース

E委員 ぎやらりーわ（「ぎやらりー」は長年使用しており、親しみがある） かがやき



表彰された土井、堺、上田さん（左から）

上位5作品に図書券贈呈

優秀作品に選ばれた上位5作品にはら3月25日、グループわから賞状と図書券が贈呈されました。最優秀の土井さん以外の当選者は次の方々です（称略）。

優秀作品（図書券1万円）土井昭政

佳作（図書券3000円・同名作品が複数の場合は2000円） 「かがやき」=廣瀬豊彦（食14）、堺寿代（音2） 「かけはし」=川村充良（福11） 「わの絆」=宮城智子（音2） 「グループわだより」=上田市夫（生10）

【2次選考に残った19作品表】

ぎやらりーわ ビジョン わ かけはし 和水流 TIMES SQUARE 相愛 ともしび かがやき わ通信 和あかり 情報「どリーむ」 緑輪 グループわだより わの絆 わ・和・輪の便り わピーる ほのぼの情報 わ グループわ ボランティア通信

土井さんの話「わをいれて、簡単でわかりやすいネーミングにしました。これまでもぎやらりーだったので、違和感もないと思いますよ。選んでいただいで光栄です」（まとめ 広報・宮里寿子）、

読者の皆さまのご協力に感謝します。

情報ぎやらりーへ寄稿のお願い

グループわの広報誌「情報ぎやらりー」に情報提供・寄稿をお願いします。

活動レポート＝部会・区会の活動レポートをお寄せください。500字～800字。写真も可。

私のボランティア日記＝個人のボランティア報告や感想。450字程度。写真も可。

情報提供＝イベントや発表会などの予定、報告をご連絡下さい。300字程度。

自由投稿＝旅行記や読書、コンサートの感想など。原稿は連絡先の電話を明記して電子メールの添付文書で編集部へ。FAXも可。誌面に掲載した記事などは、グループわのHPに転載します。

WA からのお知らせ



電話相談員をしませんか
グループわは、神戸市などから委託を受け、「虐待110番」「いじめ110番」にかかってくる子どもたちや家族の相談に応じえています。最近、家庭での子ども虐待が社会問題になっており、相談件数が急増しています。相談員に登録して、業務のお手伝いをしていただける方を募集しています。平日・土・日・祝日の夜間（男性）で、月1-2回程度。登録者が交代で担当しており、交通費と謝礼がでます。詳しくは、グループわまで、電話743-8101。

DVD「KIMONOワンダフル」完成
グループわが昨年8月、国際免疫学会会場で開催した日本文化体験教室の記録DVDが、このほど完成しました。わ本部と傘下のサークルなどが、5日間にわたって総力をあげて取り組んだイベントで、わのスタッフが撮影した映像をプレゼン用に編集したものです。英語版もあり、共に長さは14分間。各サークルの活動紹介などにご利用ください。問い合わせは、わ本部事業部まで。

わの新しい仲間は100人

グループわへの入会は、1月下旬から受け付けていましたが、4月1日現在、100人の新しい仲間を迎えることができ、登録者は計1153人となりました。コース別では福祉248・国際195・生環337・美工25・音文133・園芸58・食文124・一般33人となっています。いただいた年会費1500円の内訳は、ボランティア保険500円、部会助成400円、地区会助成400円、情報誌送料200円です。

おわび 53号 WA短信 で、「学習支援発表会」の記事中、体験報告者・阿野公晴氏（国際16期）が、阿部となっていました。お詫びして訂正します。

ぎゃらりー広報委員（3月現在、敬称略）

部会・区会の情報は広報委員までお知らせください。
【部会】柳川瀬淳一（国際）茅中英一（環境）寄藤忠彦（文化）岸田富雄（いきがい）【区会】久保正志（中央）大掛敏夫（兵庫）徳原尚世（北）細野恵久（須磨）秋山雄一（垂水）水野俊夫（西）【施設など】山口俊雄（未来館）【一般】今田紘（監事）宮里寿子（北）堺寿代（西）宮城智子（兵庫）胤艸武宏（北）

わのホームページ更新をお手伝いくださる方、ご連絡ください。

わのメールアドレス=わ本部 group_wa@wa-net.jp

子供たちと一緒に

つばやき

シルバーカレッジ入学と同時に、ボランティア活動を始め、卒業後、わの本部に入ってからも続けています。

小学1・2年生を対象にした算数の学習支援はもう6年になります。計算が苦手な子供たちと一緒に考えたり、ヒントを教えたり。休み時間には校庭に出て、遊具や鉄棒、縄跳び、ドッジボール、一輪車で遊ぶ子供たちを見守りながら、できるだけ寄り添うような気持で接しています。

子供たちは元気で、大変疲れますが、「今度いつ来てくれるの?」と聞かれると、とても嬉しい気持ちになります。いつもパワーをもらい、私の生きがいにもなっているので、体力の続かぎり、無理せず自分のできることをしたいと思っています。

学習支援は、はた目で見ると難しくはありません。子供たちも、学校も待っています。ぜひ一度、わに声をかけて、見学にいらしてください。
宮崎芳江（生環12）

編集後記



2万7000人も死者・不明者、根こそぎ消えてしまった町や村、不安が広がる原発事故……。巨大地震被災地の惨状に心を痛め、「何か力になりたい」「お手伝いできることはないだろうか」と思索している方は多いようです。でも復興は長期戦。阪神大震災でボランティア経験を積んだカレッジ関係者の出番はこれからです。わでも被災者支援プロジェクトを発足させ、募金以外に、どんな活動ができるのか、具体案を練っています。広報誌・HP・支援レポートを通じて情報をお知らせします。ぜひ、支援の輪に加わってください。

新しいネーミングは『ぎゃらりー わ』と決まりました。簡潔ですっきり、という印象です。「変わりばえしない」という声もありますが、選考委員は継続性と、わの絆を重視して下さったようです。「読みやすくなった」「カラー表紙がいい」と、アンケートでも好意的な意見をいただいています。内容面の充実はこれからです。皆さまのご協力をお願いします。（広報担当・南形徹）

情報ぎゃらりー wa_gallery@wa-net.jp

グループわ 春～夏のイベントガイド

| 開催日時・場所 | テーマと内容 | アクセス・問い合わせ先 |
|-----------------------------------|--------------------------------------|-------------------------|
| 4月23日(土)10:00～15:00 こうべ環境未来館 | エコスクール 春の生き物を調べよう 観察、採取、スケッチ、試食など | 神鉄「木津駅」徒歩5分 995-3196 |
| 4月24日(日)10:00～12:30 しあわせの村 | バードウォッチング 野鳥の種類や鳴き声を観察する | しあわせの村内 743-8101 |
| 5月5日(木)11:00～15:00 しあわせの村 芝生広場 | わいわいストリート 子ども達と遊びを通して触れ合う | しあわせの村内 743-8101 |
| 5月15日(日)10:00～15:00 こうべ環境未来館 | エコスクール 昆虫調査大作戦 採取、種類調べ、スケッチ、発表など | 神鉄「木津駅」徒歩5分 995-3196 |
| 6月15日(水)10:00～15:00 再度山、修法が原 | 春の森林浴ウォーキング 会員の親睦を図りながら森林散策 | しあわせの村内 743-8101 |
| 6月25日(土)10:00～15:00 キリンピアパーク神戸 | エコスクール 楽しいエコ体験 工場敷地内のビオトープ体験 | 神鉄「木津駅」徒歩5分 995-3196 |
| 7月30日(土)16:00～19:00 しあわせの村芝生広場 | しあわせの村まつり いろいろな遊びにチャレンジしよう | しあわせの村内 743-8101 |
| 8月21日(日)10:00～15:00 しあわせの村研修館 | 夏休み工作塾 いろいろな作品づくりを楽しもう | しあわせの村内 743-8101 |

楽しいよ「わいわいストリート」 5月5日に村の芝生広場で開催します。サッカースピードガン測定。皿回し、動物風船・竹馬・うちわ作りなど、子供たちだけでも家族といっしょでも、楽しく遊べるイベントがいっぱい。全員集合してね！！

夫婦ペアが優勝 春季ペタンク

春季ペタンク大会(わ主催)は3月10日、しあわせの村球技場で20組40人が参加して行われ、南健次・愼子の夫婦ペア(須磨太陽)が優勝しました。寒風のなか、9時から予選リーグを開始。10チームが2次リーグへ。残る10チームは親睦トーナメントで熱戦を繰り広げました。優勝戦は10-11の接戦となり南チームが逃げ切りました。2位は原昭男・丸草祐次チーム(名谷A)。3位は谷口美恵子・竹村清美チーム(たるみ)と西口明・伊須原重昭チーム(生環)でした。
写真は奮闘する名谷Aチーム





大雪のカレッジ

白銀に映えるシルバーカレッジ。2月15日朝、十数年ぶりの大雪に見舞われたしあわせの村一帯の珍しい風景です。積雪20cm。雪は前日の午後から降り始め、瞬く間に道路を覆ってしまい、帰宅できなくなったマイカーが村内のあちこちに。雪が多かったこの冬でも、この日は特別でしたね。
(写真はカレッジ事務局提供)



手打ちうどん塾 大繁盛

東日本大震災のニュースが駆け巡る3月13日、カレッジ調理室で「うどん塾」を開きました。お手伝い役は食文11期生14人(代表・井上美津子)。震災で亡くなった方々のご冥福と被災地の復旧を祈った後、参加14家族・45人が8テーブルに分かれ、スタッフからうどんの話や作業手順を聞いて「さあ、開始」。子供たちは小麦粉を練ったり、延ばしたり、包丁で切ったり、ゆがいたり。一生懸命です。特製のかき揚げとおつゆはスタッフが朝から総出で作りました。

みんなで奮闘すること2時間。スタッフのてきぱきした指示で、ほやほやの手打ちぶっかけうどんの出来上がりです。「さあ、食べるぞ」「うまい、うまい」「味はグーや、もっとほしい」。にこにこ、満足そうな顔、顔、顔。イベント責任者としても、心地の良い満腹感にひたることができました。(わ事業部・岸本清=写真も)

ちびっこ熱演 2月19日に
行われた
地域交流と文化の祭典に特別出
演した「泉台よさこいチーム」
と「星和台・どどみくらぶ」。
撮影=渡邊佳視(記事4面に)



堂坊池のカワセミ
連載「村の野鳥物語」(5面に)

トピックス

